

行田公園のヤマドリタケモドキ

須賀 良行

行田公園のこと

千葉県船橋市にある行田公園は、昭和 47 年(1972 年)から整備され、昭和 52 年度(1977 年度)に東側が、昭和 54 年度(1979 年度)に西側が開園されたという、12ha ほどの県立公園であります。船橋市の西部、中山競馬場の東側にあり、第二次世界大戦の始めにトラトラを発信したと言う通信基地の跡地の一部です。跡地は高低差がほとんど無い平坦な直径 800m ほどの円形の敷地で、地図を見れば一目でわかる特徴ある形状です。その敷地を東西に二分し、野球のボールの縫い目型に上中下に 3 区分され合計 6 区分しています。北の敷地 2 区分は税務大学校など国の施設、南の敷地 2 区分は住宅団地、真ん中の東西に扇をつなげたような敷地 2 区分は県立公園として、一体的に整備されました。東西に広がる敷地は既存の樹木も活用し、東側では広い芝生広場を持つ洋風の空間を中心に、西側には日本庭園風の池を持つ空間と芝生広場を持つ空間がしつらえられています。

行田公園との関係

わたしは、昭和 49 年(1974 年)に大学を卒業し、しばらくは千葉県市川市で、民間アパートに住んでいましたが、数年ごとに更新があり、更新などがない公団住宅に住みたいと考えていたところ、近くの西船橋駅から歩けるところに現在の UR 都市機構(かつての住宅公団)が開発した住宅団地ができて、募集をしていることを知りました。ここが行田公園と一体的に整備され、隣同士にある住宅団地



行田公園の全景(ウィキペディアより)



行田公園(千葉県ホームページ公園案内より)

でした。申し込んだところ一発で入居することができることになりました。昭和 51 年(1976 年)12 月のことで、それから 2012 年の現在まで、ずっとここに住み続けています(でも団地内で 1 回転居しています)。

きのこ発生の経過

入居直後は、まだ公園の整備が始まっておらず所々に木々がある畑でした。それから整備が始まって、4年後に全域が開園されました。開園してからは良く散策コースにしていますが、きのこで最初に見つけたのは、アミガサタケだったような気がします。そのほか、アンズタケ、ハタケシメジ、ササクレヒトヨタケ、ナラタケモドキなどが見られました。アンズタケは、散発的で量もそれほどありませんが、今でも時々発生します。

ハタケシメジは、一時大量に発生していました。そのころ勤めていた会社の親会社の研究施設では、ハタケシメジの栽培研究をしていたので、行田公園のハタケシメジをサンプルとして宅配便にして送った覚えがあります。今の栽培種の親になっているかもしれません。

ササクレヒトヨタケとハタケシメジは、しばらくのあいだ、そこかしこに発生していましたが、だんだん少なくなり、じきにほとんど見なくなりました（いつごろ発生しなくなったのかなど、記憶はあまりはっきりしないので、後日改めて古い写真などから調べなおしてみたいと思っています）。

ササクレヒトヨタケのほうが早いうちに出なくなりました。ナラタケモドキは、あるとき公園中のサクラの根元から大量に発生していることがありました。傷んだ姿が、そのころ映画になった宮崎駿の「もののけ姫」の「たたり神」がまき散らしたミミズの塊のようでした。それ以降めつたに出ませんが、昨年も、ちょっとだけ発生しました。

アミガサタケも最近は少なくなり発生を見ない時もあるようになりました。そんなことで、しばらくは、行田公園から遠ざかっていました。

ヤマドリタケモドキの発生

ところがあるとき偶然立寄った所、ヤマドリタケモドキを発見したのです。初めて発見



発見したきのこ(2007年7月21日)



発見したきのこ(2007年7月22日)



発見したきのこ(2007年7月24日)

したのは、2006年の8月4日で、公園西側の一角でコナラが多い林の中で、1本のエゴノキを取り巻くようにフェアリーリング状に発生していました。発生後相当あとになって見つけたようで、虫食い状態の老菌で、そこかしこに転がっていました。それ以降頻りに周辺を見回りましたが、その年は、それ以降、見つけることができませんでした。

翌2007年は、6月末ごろから週1～2回のペースで見回りを続けました。そして7月の中ごろから、ほぼ1ヶ月にわたる大量発生を見ることになったのです。7月13日に見つけた幼菌は、雨が続いたことが原因なのか6日後の18日になるまで成長を続け、笠の裏はまだ白いままでした。一方7月21日に見つけた幼菌は、4日目には、笠の裏が茶色になっていました。さらに9月19日になって、舗装道などで区分された、隣のエリアにも大量に発生しているのを発見しました。そこもコナラがある林でした。

2008年には、前年と同様に5～6月は雨が多かったのですが、7月の発生は見られず、8月は雨が少なく発生を確認できませんでした。9月になってようやく、しかしあっという間に、発生していました。発生した箇所は主に昨年見つけた隣のエリアでした。

2009年は、雨が比較的コンスタントに降りましたが、8月の初旬と中旬の2回とも、老菌だけを発見するという結果に終わりました。

2010年は、7月から8月にかけては、雨が少なかったのですが、9月になって、今まで経験したことが無いような大雨が降りました。その雨から2週間後9月23日になって、両方の場所で大量に発生しました。

2011年のヤマドリタケモドキの発生状況

2011年は、2007年以来の発生を確認しました。6月の中旬から7月中旬までは、ほとんど雨が降りませんでしたが、8月早々から9月の中旬まで、両方のエリアで3～5回ほ



2011年8月3日の発生状況



2011年9月3日の発生状況



2011年9月4日の発生状況



2011年9月10日の発生状況

どの発生がありました。8月の早々の発生は、2週間前のちょっとした雨が効いたのか、4～6日前の数ミリの雨が続いたことが功を奏したのか、成長が早くあっという間で、発見が遅れました。温度が高かったので、生長も早かったかもしれません。この間の発生は、雨の中でしたが、12日過ぎには、ほとんど雨の降らない中で、また少しだけ発生しました。

その後雨はたくさん降りましたが、発生は小休止状態でした。しかし8月の末になってから、たくさんの幼菌を見つけました。見つけてから、4日目には、平均気温があがったためか、十分に大きくなってしまいました。その後も9月中旬まで、何回か散発的に発生が続き、最後の発生を確認したのは、14日でした。その間に、今まで発生を確認していない公園の東側のエリアでも、老菌を見つけました。

気象と発生グラフの作成

2007年の観察結果について、写真はデジタルカメラで撮影しているので、撮影日のデータは写真に記録されているから、天気と組み合わせると、きのこ発生のメカニズムがなにか見えるかもしれないと思い、過去の天気と記録を調べてみましたが、当初は千葉市の情報しか見つけられませんでした。最高気温と、最低気温、平均気温、雨量と発生を確認した日を重ねたグラフを作ってみました。

翌年には、気象庁の情報に船橋市の気象記録があることを発見してデータを入れ直し、それ以降は、船橋市の記録を使って毎年グラフにしました。グラフは、エクセルのグラフツール(グラフウィザード)を使い、表(月日を横軸に最高気温、平均気温、最低気温、雨量、発生確認の順)を作って気象記録を打ち込みグラフを作ります。左側が気温の目盛りで0から1目盛り5で40まで、右側が雨量で、1目盛り10mmで80mmまでつけてあります。横軸が月日で、5月1日から9月30

日まで1日ごとの数字を入れてあります。中央の5月から上がってきて、8月をピークにして下がっている3列の折れ線グラフが、最高気温・平均気温・最低気温のグループです。

高低差の大きい青い棒グラフになっているのが、降雨の記録です。そして下の写真から引き出し線がついている赤い線2段階で表現されているのが、ヤマドリタケモドキの発生が確認された日(横軸の1段目)と写真記録がある日(横軸2段目)です。このグラフをコピーして、気象記録を新しいものに入れ替えると新しいグラフができます。それに代表的な写真のデータをコピーして張替えしているわけです。

グラフからみえること

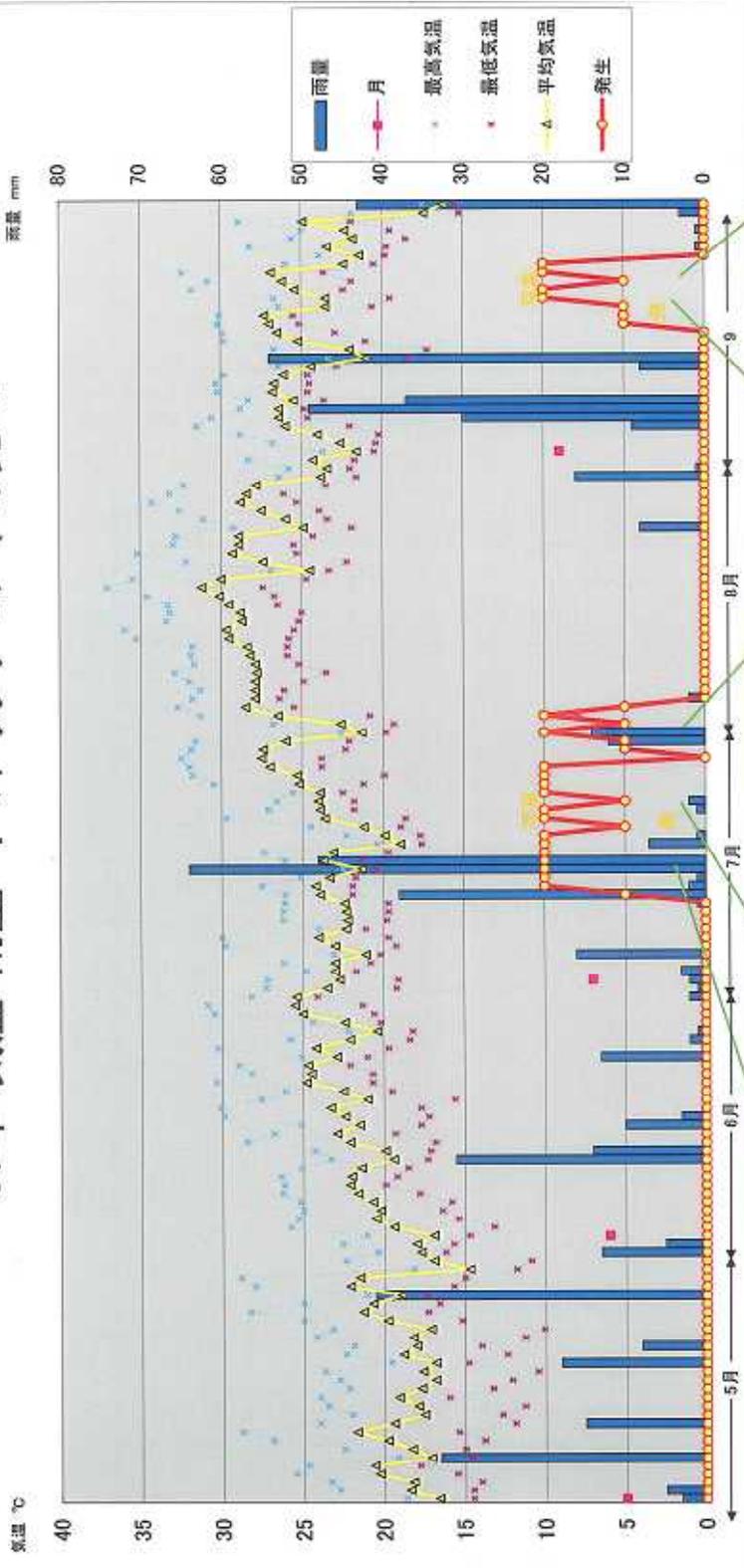
2011年の記録で、5年目になりますが、グラフから見えることは、以下のようなことでしょうか。2007年のグラフでは、7月の発生は、最低気温が20になるころ平均気温が23ほど、最高気温が26ほどであることがわかります。発生の途中で、大きく温度が下がっています。

8月の発生では、数日前に気温が大きく変動していますが、最も下がったときは、7月の気温と同じくらいです。そのとき雨も降っています。温度が上がったときは、最低気温は変化していますが、平均気温は、26程度、最高気温は30ほどです。

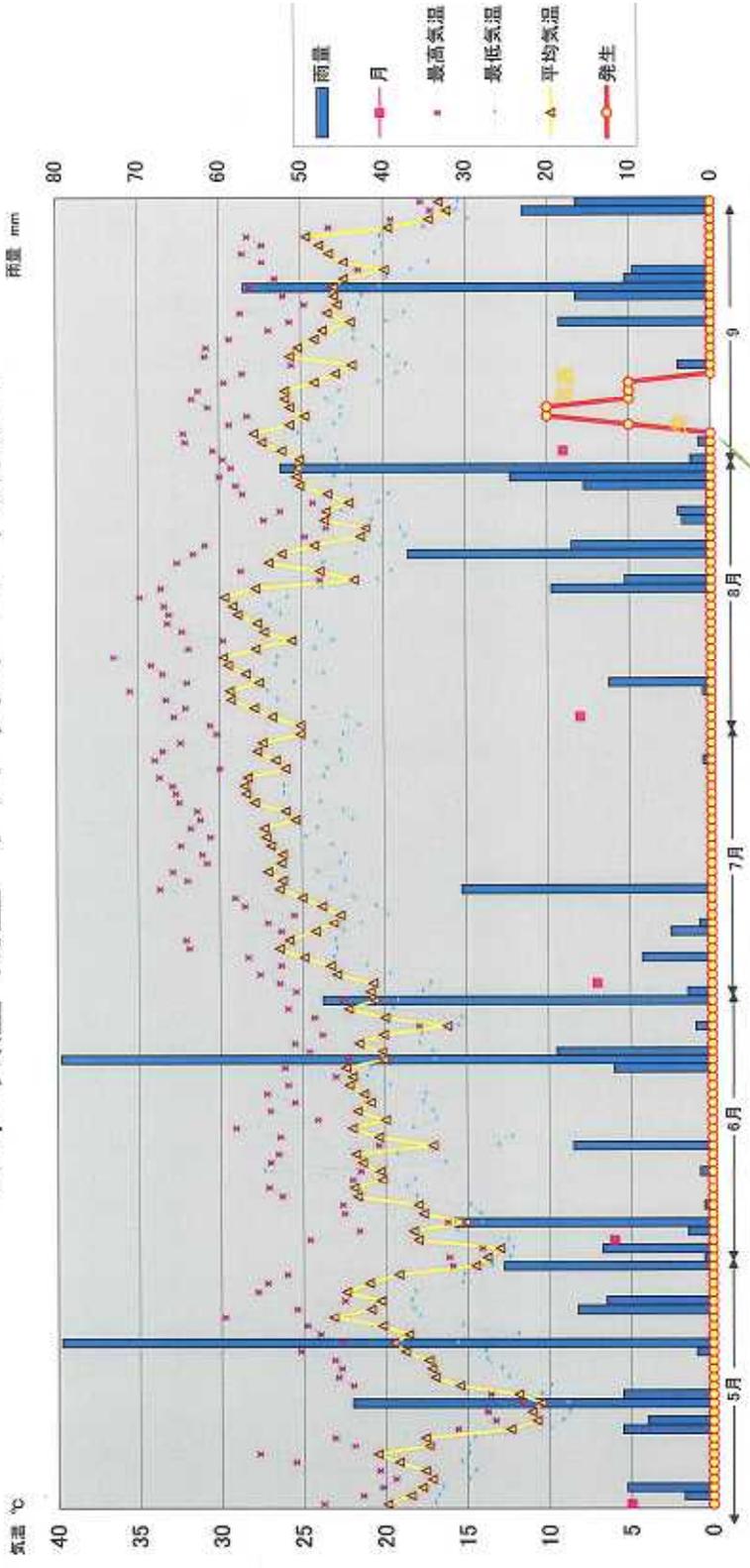
2008年のグラフでは、9月の発生は気温が数回最低気温20ほどまで下がってから、最低気温23、平均気温25、最高気温30を経て発生しています。2009年も1回目の発生では、1～2回温度が下がって(最低気温が20ほど)また上がってきたときに発生しています。2回目では温度の低下が顕著ではありませんが22ほどに下がった日が1日あります。2010年の発生でも最低気温が20前後まで下がっていることがわかります。

2011年でも最初の発生は、一旦上がった気

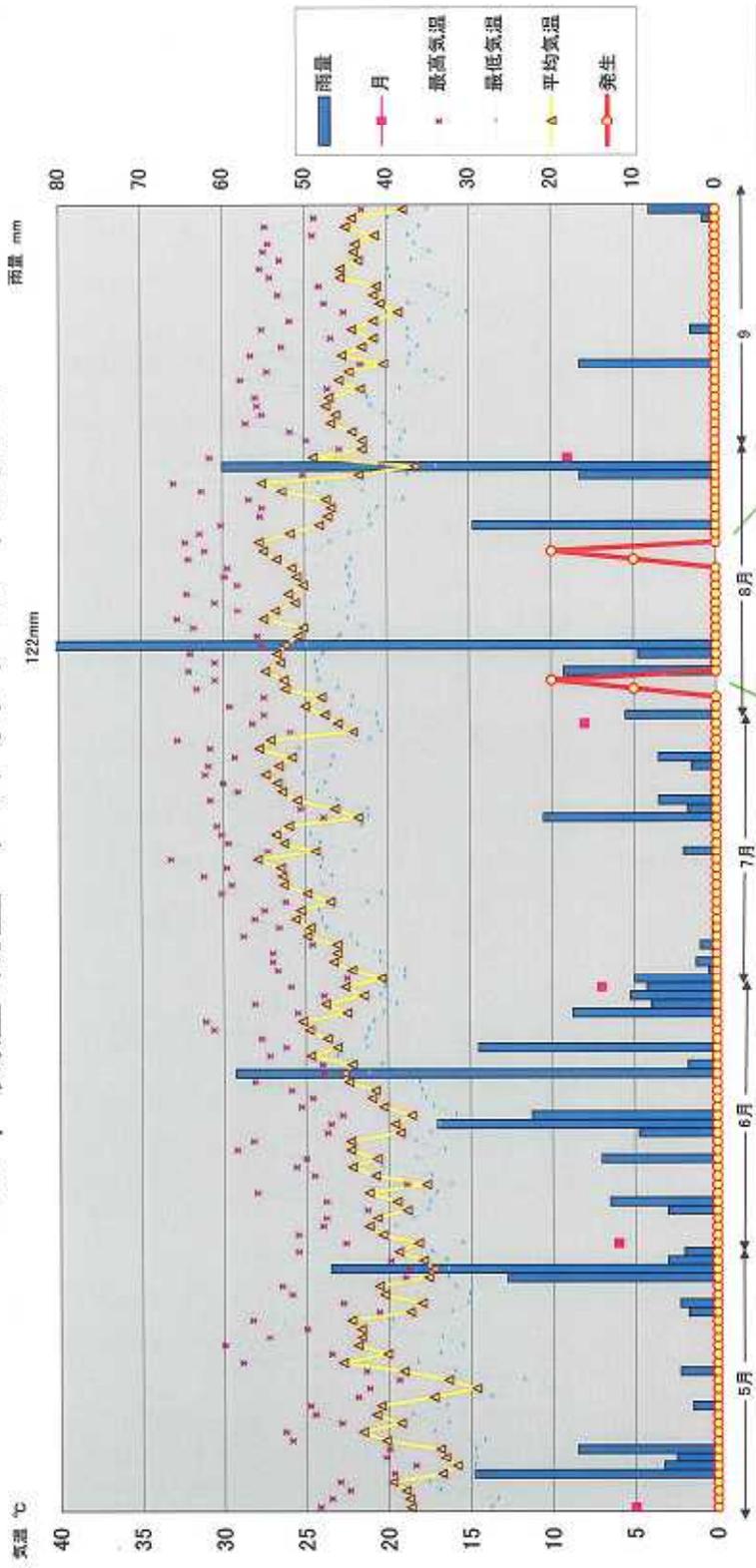
07年 気温・雨量・ヤマドリタケモドキの発生



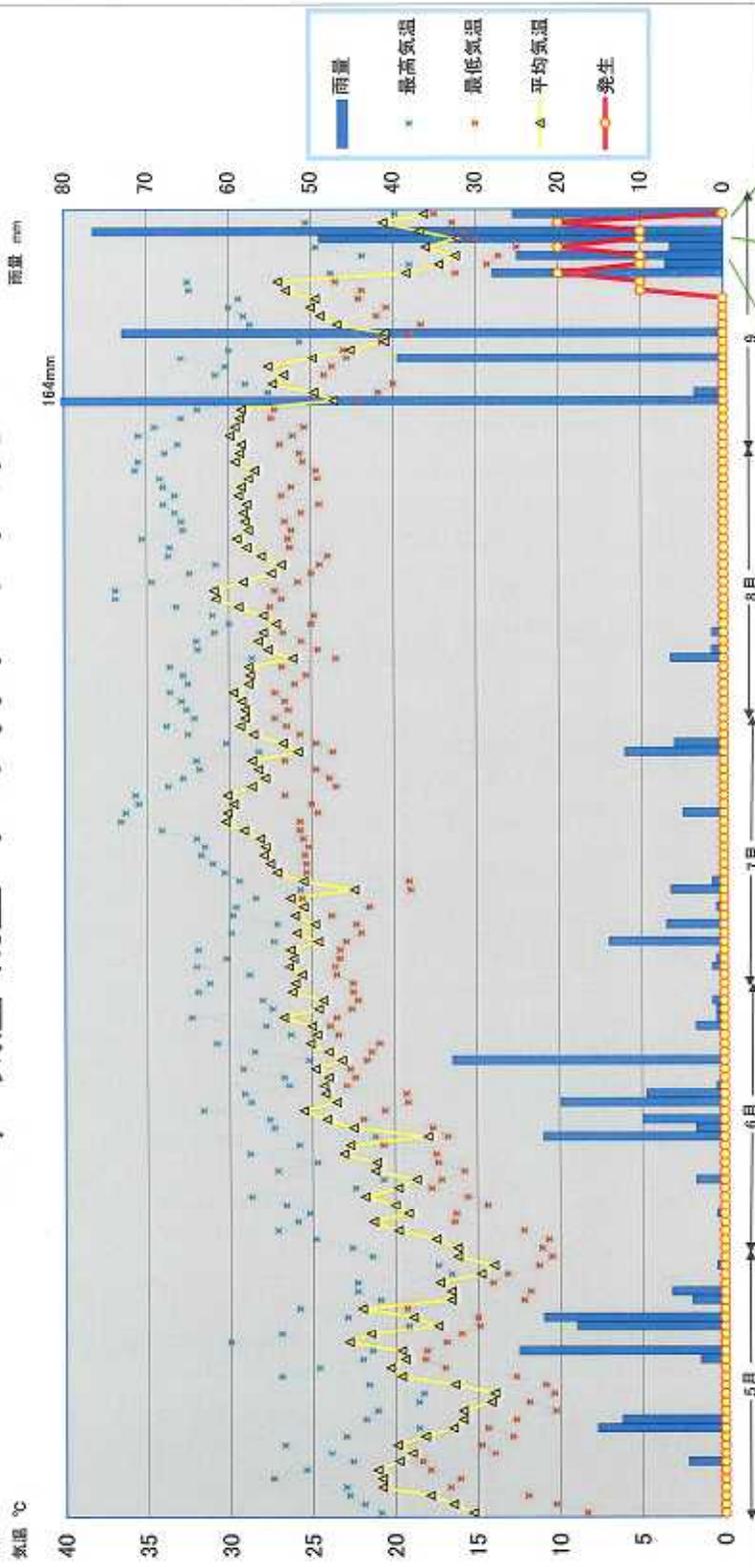
08年 気温・雨量・ヤマドリタケモドキの発生



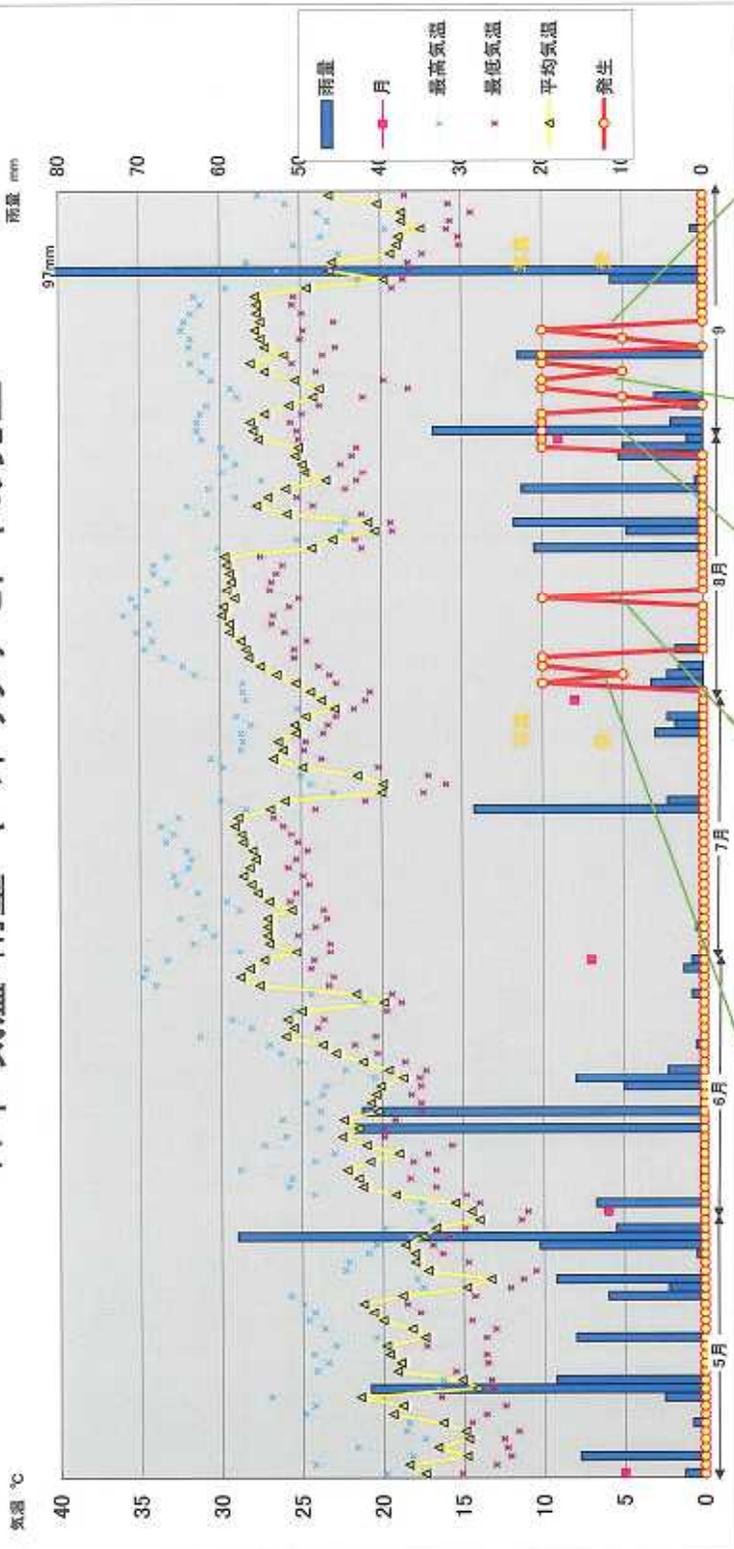
09年 気温・雨量・ヤマドリタケモドキの発生



10年 気温・雨量・ヤマドリタケモドキの発生



11年 気温・雨量・ヤマドリタケモドキの発生



温が7月中に雨の降ったのち最低気温 16~17 まで下がっており、2週間後にきのこが発生しているように見えます。つまり、最低気温が20程度に下がったりして、ちょっとでも雨が降れば、その後2週間後に発生するというのでしょうか。

しかし、雨のことは非常にわからない状態です。降らなくても出るときは出ると、いった感じでしょうか。

そのほか発生日は、7月中旬から9月いっぱいまで、年によって相当のばらつきがあります。成長の時間は、気温が低いときは、一週間程度、一般的には3日以内、(早いときは1日で?) などでしょうか。

形態のバリエーション

これまでの観察結果で、きのこのこの形について考えてみると、変異の幅が大変大きいと思うので、タイプに分けて写真に示しました。

のスリムタイプとは、茎の形状がまっすぐに近く太さがあまり変化しません。地面が比較的乾いた状態が出るようで、写真でも柄がカサカサになっています。

の下ふくれタイプは、最も一般的なタイプで、下のほうが太く上のほうに細くなるタイプです。

の下くびれタイプは発生の最後のほうで、たまに見るようになります。

の筋骨隆々タイプは、地

面はぬれているが、晴天が続いているときなどに発生するように思います。

の消滅タイプとは、今回初めて見つけたもので、発生後数日で、縮んでしまう固体があることがわかりました。

また、かさの表面も天候などによって雨の多いときは、のっぺり型で、晴れが続くと、のでこぼこ型に、乾燥すると、のひびわれ型になるようです。

さいごに

船橋市も原発事故の影響があり、土壤汚染が気になるところですが、行田公園では、まだしばらくのあいだヤマドリタケモドキの発生が続くものと思われるので、引き続き観察を続け、又報告ができたらと考えております。



下くびれタイプ



筋骨隆々タイプ



消滅タイプ



スリムタイプ



のっぺり型、 でこぼこ型



下ふくれタイプ



ひびわれ型、 でこぼこ型